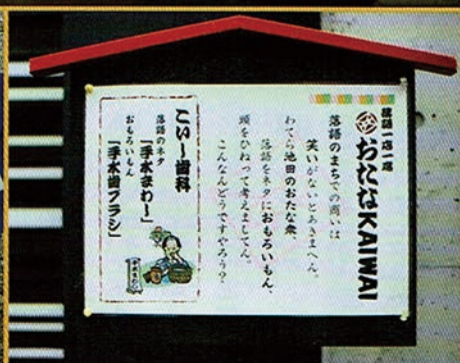


落語の町、池田で10年間続いている「手水(ちょうず)寄席」の会場は、「こいし歯科」の待合室。「地元の『おたなKAIWAI』という町おこしの会に何か協力できることをと、最初はお祭りに参加して一般の方向けに歯の話をしていたのですが、なかなか人が集まらない。本当に来てほしい人には来てもらえなかったんです。それで、落語会をすると、いろんな人に来てもらえるかなと思ったのが、きっかけです」と、小石先生は話す。

社会人落語家に協力してもらい、奇数月に1回「手水寄席」を開催するようになると、思った通り遠方からもたくさんの落語ファンが来てくれるように。落語の合い間には、小石先生も着物姿で舞台へ。歯の話も、みんなが楽しく聞いてくれるようになった。

「予防歯科で、啓発をどうしたらいいかというのが課題でしたが、この街ならではの楽しい方法でできるようになったと思っています」。笑って楽しんで、歯も健康になって一石二鳥の楽しい寄席だ。

天満天神繁昌亭の落語教室に通い、頂いた高座名は「天神亭笑歯」。手水寄席では、「恋歯家歯つ恋」の高座名で活動する小石 剛先生。手水寄席が10年も続いているのは「椅子を運んでくださったり、皆さんが手伝ってくださるおかげです」。



商店街の各店前には「落語のまち池田」にちなんで、「落語一店一席」の立て看板が。「こいし歯科」の落語ネタは「手水まわし」、おもろいもんは「手水歯ブラシ」。